



仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム
2025年度 活動説明会

開始まで、今しばらくお待ちください

2025/7/29 (火)



仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム
2025年度 活動説明会

2025/7/29 (火)

はじめに

- ・ 本日の内容は、録画しております。
- ・ 後日、ウェブサイトにて、アーカイブ動画を公開する予定です。
- ・ 質問は、Q & A機能にて受け付けます。
※質問によっては回答が難しい場合があります。ご了承ください。
- ・ 本日の資料は、ウェブサイトからダウンロードできます。
ぜひお手元でもご参照ください。

2025年度 活動説明会

- ・仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームの取組紹介
- ・2025年度の年間活動予定
- ・事例紹介 | 仙台BOSAI-TECH参画事業者の歩み

■事業創出プログラムのご案内

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| ・ Future Awards | テクノロジーで明日を守る課題探求プログラム |
| ・ Open Bridge | 自治体担当者との対話から気づきを得る個別セッション |

■事業化・社会実装プログラムのご案内

<実証実験/試作開発支援>

- | | |
|-----------|-------------------|
| ・自治体課題解決型 | 自治体が提示する課題に対する検証 |
| ・自由提案型 | 企業が自ら設定した課題に対する検証 |

■海外展開支援プログラムのご案内

- | | |
|----------------|----------------|
| ・Step Abroad ! | 海外展開にむけた第一歩を支援 |
|----------------|----------------|

主催者挨拶

仙台市 経済局イノベーション企画課長 小池 伸幸

仙台BOSAI-TECHの取組紹介

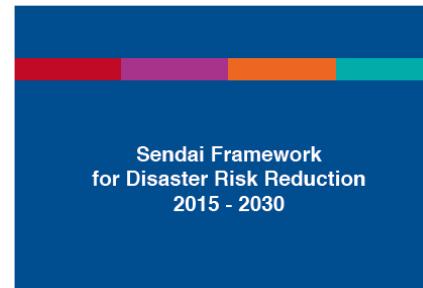
仙台市 経済局イノベーション企画課 成長産業係長 菊地 健

仙台防災枠組2015-2030

●第3回国連防災世界会議（2015年3月開催）

幾多の災害から日本が得た教訓、防災技術・ノウハウ等の発信。

国際的な防災の取組指針「**仙台防災枠組2015-2030**」を採択。



●持続可能な開発目標（SDGs）（2015年9月決議）

ターゲット11.b（抜粋）

『2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、**仙台防災枠組2015-2030**に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。』

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

11 住み続けられる
まちづくりを



仙台経済COMPASS（2024年～2026年）

目標

2030年度における「市内総生産の過去最高額の更新」

計画期間

2024年度～2026年度

本計画期間は目標達成に向け、企業や地域経済の「変革」を軌道に乗せるための取り組みを進めます。2027年度以降の施策展開については、外部環境の変化等を踏まえ別途検討を行います。

2030年を見据えた変革への3つの視点

視点1

多様な主体の活躍と参画

視点2

新たな市場への挑戦

視点3

他分野との融合による成長

6つの重点プロジェクト

1.「企業の変革に向けた
『戦略的ダイバーシティ』の推進」プロジェクト

2.「学都の『知の力』を活かした
イノベーション創出」プロジェクト

3.「地元中小企業の変革と成長促進」プロジェクト

4.「『防災環境ビジネス』の推進」プロジェクト

5.「DXによる経済成長と
暮らしやすさの向上」プロジェクト

6.「外貨獲得のための
『エリア価値』の向上」プロジェクト

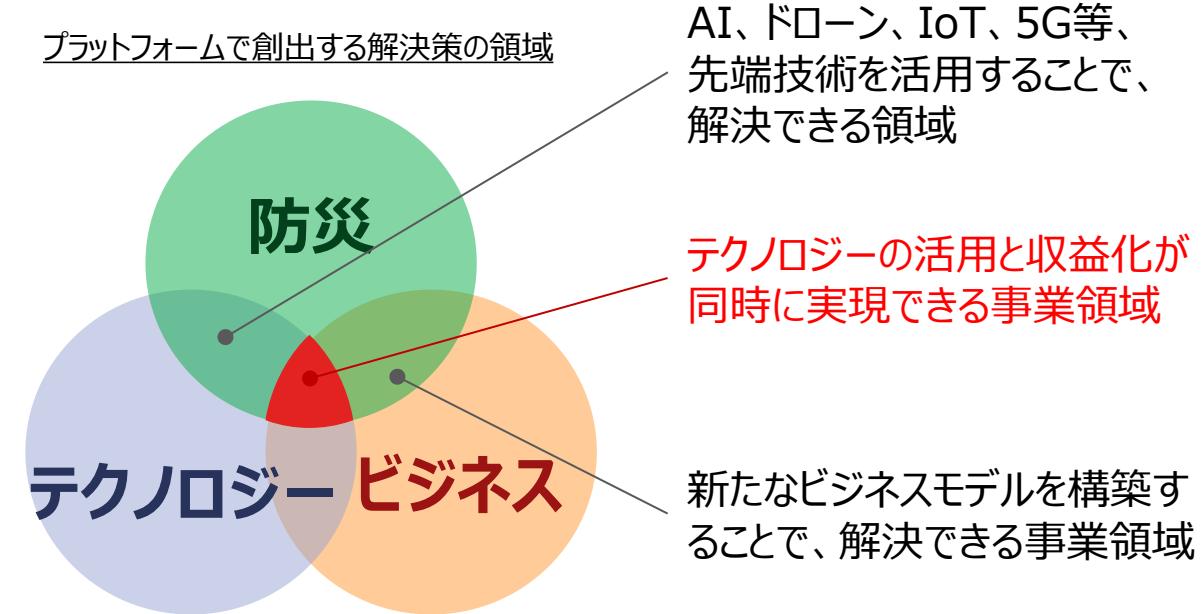
- “防災環境都市”としてのプレゼンスの高さを活用
- オープンイノベーションを加速させBOSAI-TECHの国内外への展開を進める

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム

■ BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームの設立と目指す姿

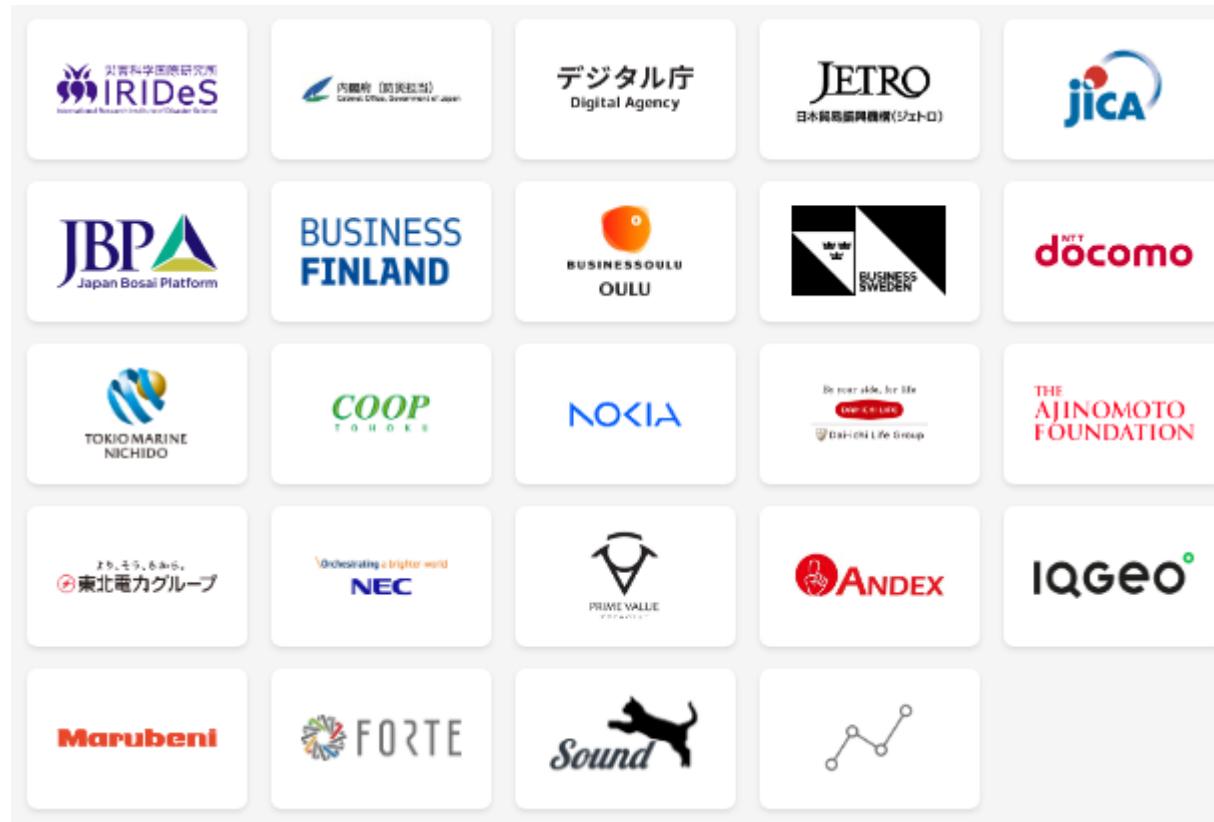


2022年2月3日にプラットフォームを設立
(2025年7月25日時点で293の団体が参画)



『仙台防災枠組』の実現を目指し、【防災】×【テクノロジー】×【ビジネス】を融合した
新たな解決策を生み出す場となり、その解決策を仙台、日本全国、世界へと展開する

プラットフォーム会員



民間企業

236

地方自治体

34

政府系機関

19

学術研究機関・その他

4

※2025年
7月25日時点



岩沼市
■ 日本
岩沼市

宮城県の中央部、仙台市の南17.6kmに位置。市域は、東西約13km、南北10km、総面積60.45km²を有する都市であり、西部の山岳地域から東部の太平洋岸に至るまでなだらかに…

[詳しく見る >](#)

大垣市
■ 日本
大垣市

水の都として栄えてきた大垣市は、古く江戸時代には、東西文化と経済の交通拠点として、明治以降は豊富で良質な地下水を活用した、紡績や印刷産業などが発展してきました。

[詳しく見る >](#)

高知県
■ 日本
高知県

当県では、県や市町村、事業者、県民の皆さまがそれぞれの立場で実施すべき具体的な取組をまとめた「南海トラフ地震対策行動計画」に基づき、地震対策を進めてきました。

[詳しく見る >](#)

塩竈市
■ 日本
塩竈市

塩竈市は、奥州一の宮鹽竈神社の門前町として、また港町として栄えてきました。新鮮な魚介類が豊富にあり、港町独特の食文化がつくれられています。すし店の数も多く、水産…

[詳しく見る >](#)

須賀川市
■ 日本
須賀川市

須賀川市は、福島県のほぼ中央に位置し、国道4号を挟んで東西に伸び、市街地は南北に馬の背のように伸びた丘陵地に広がっています。西に那須連峰、東に阿武隈高地の山並…

[詳しく見る >](#)

仙北市
■ 日本
仙北市

仙北市は、2005年に旧田沢湖町、旧角館町、旧西木村が合併して誕生しました。日本一深い湖「田沢湖」や乳頭温泉郷、玉川温泉、角館の武家屋敷と桜まつりなどの観光…

[詳しく見る >](#)

プラットフォームの活動内容

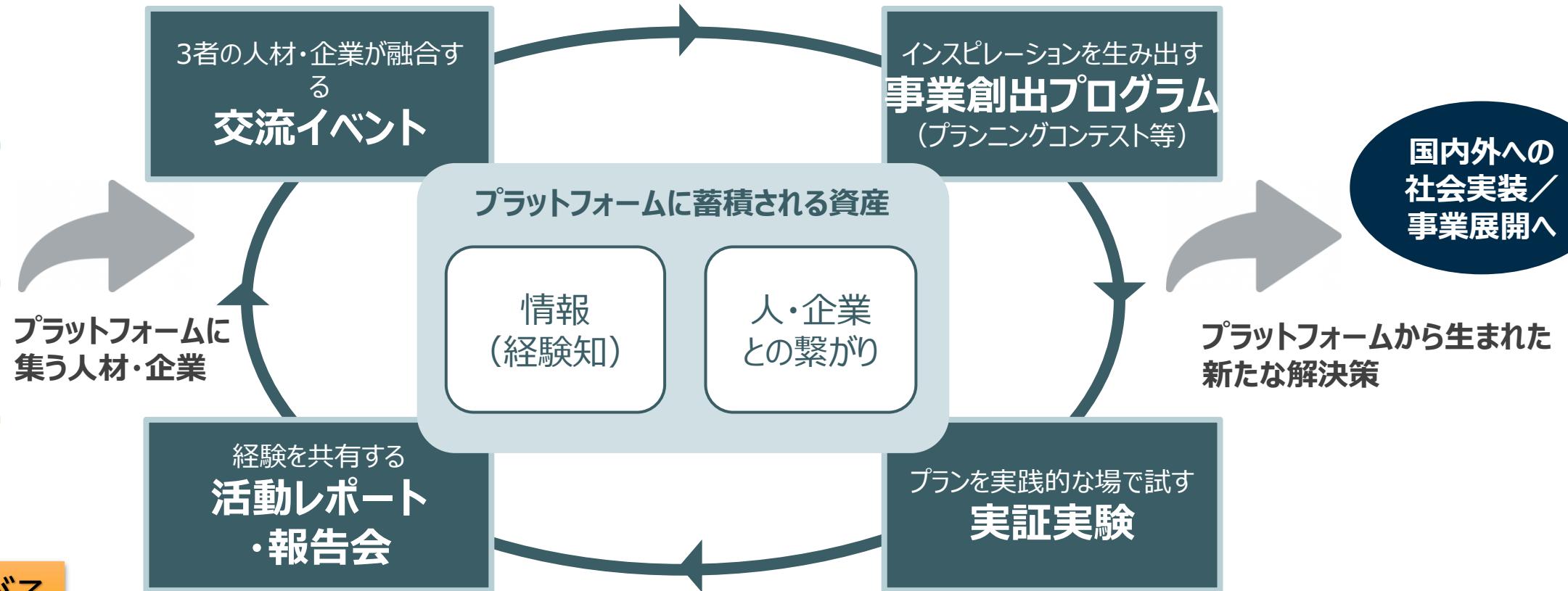
防災
人材・企業

テクノロジー
人材・企業

ビジネス
人材・企業

知る 繋がる

ひろ
展がる 創る



今年度のプログラムについて、本日の説明会にてご紹介

今年度のBOSAI-TECHの特徴

新たに気候変動対策・脱炭素等の視点を取り入れる



将来の「防災・減災」対策

防災

危機管理局

環境

(気候変動対策・脱炭素等)

環境局

課題提示や現場視察により各分野におけるソリューション開発を支援

プラットフォームの活用（事例・実証の蓄積・共有）

実証実験の共有（例：高齢者見守りシステムの活用）

事例・インタビュー
BOSAI-TECH発の実証実験事例

高齢者見守りシステムを活用した災害発生時の情報通知と避難支援要請

2025.03.07

産電工業株式会社 | IoT、センサー | 実証実験/試作開発支援プログラム

› 実証実験/試作開発支援プログラムにおいて、
産電工業株式会社が、高齢者見守りシステム「スマートケアリンクみいるも」を活用し、災害時要支援者を対象とした実証実験を実施しました。

[成果報告書をダウンロード](#)

事例の共有（例：Tsunami Balloon）

事例・インタビュー
BOSAI-TECH発の試作事例

バルーン型避難標識の自動掲揚装置のプロトタイプ開発

2025.03.25

Tsunami Balloon | AR、VR、MR | 3D技術、地図・空間情報 | 実証実験/試作開発支援プログラム

› 実証実験/試作開発支援プログラムにおいて、
Tsunami Balloonが、津波の避難場所の周知を課題とする沿岸地域向けのソリューションとして、避難者に避難場所を揭示できる「バルーン型避難標識」の試作開発を実施しました。

[成果報告書をダウンロード](#)

企業の取組紹介・コンタクト

日本
株式会社 J DRONE
東京都新宿区

電動ドローン、無人ヘリコプター、固定翼無人機を活用したドローン飛行によるサービスを提供しています。

2023年7月に仙台市内に仙台サービスベースを新たなサービス創造拠点として開設したことを機に、SENDAI BOSAI TECHに参加させていただくこととしました。

2022年に導入した衛星通信機能付き無人ヘリコプターは航続距離90km、航続時間100分を実現し、有人ヘリコプターや電動ドローンが到達できないエリアで安全な飛行調査、物資輸送を実施します。

福島第一原発事故後、無人ヘリコプターで放射線線量測定を行うメンバーを中心に、高い防災意識を持ち安全で高品質なサービスを提供しております。

担当者
第2サービス部 グループリーダー
長久 貴史（ながく たかし）

[ウェブサイトへ](#)

[担当者にメッセージを送る](#)

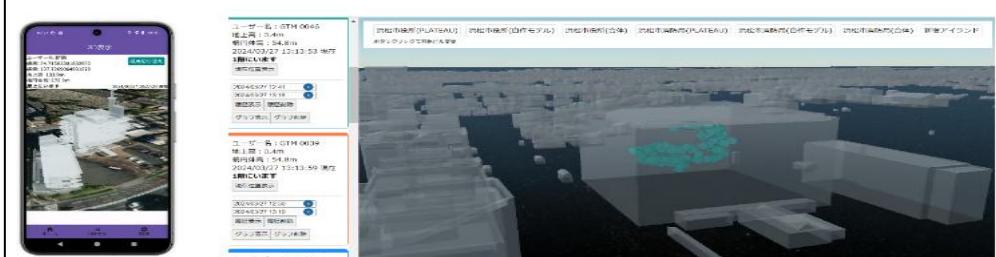
取組紹介（例：浜松市における実証事業）

事例・インタビュー
会員企業の実証実験事例

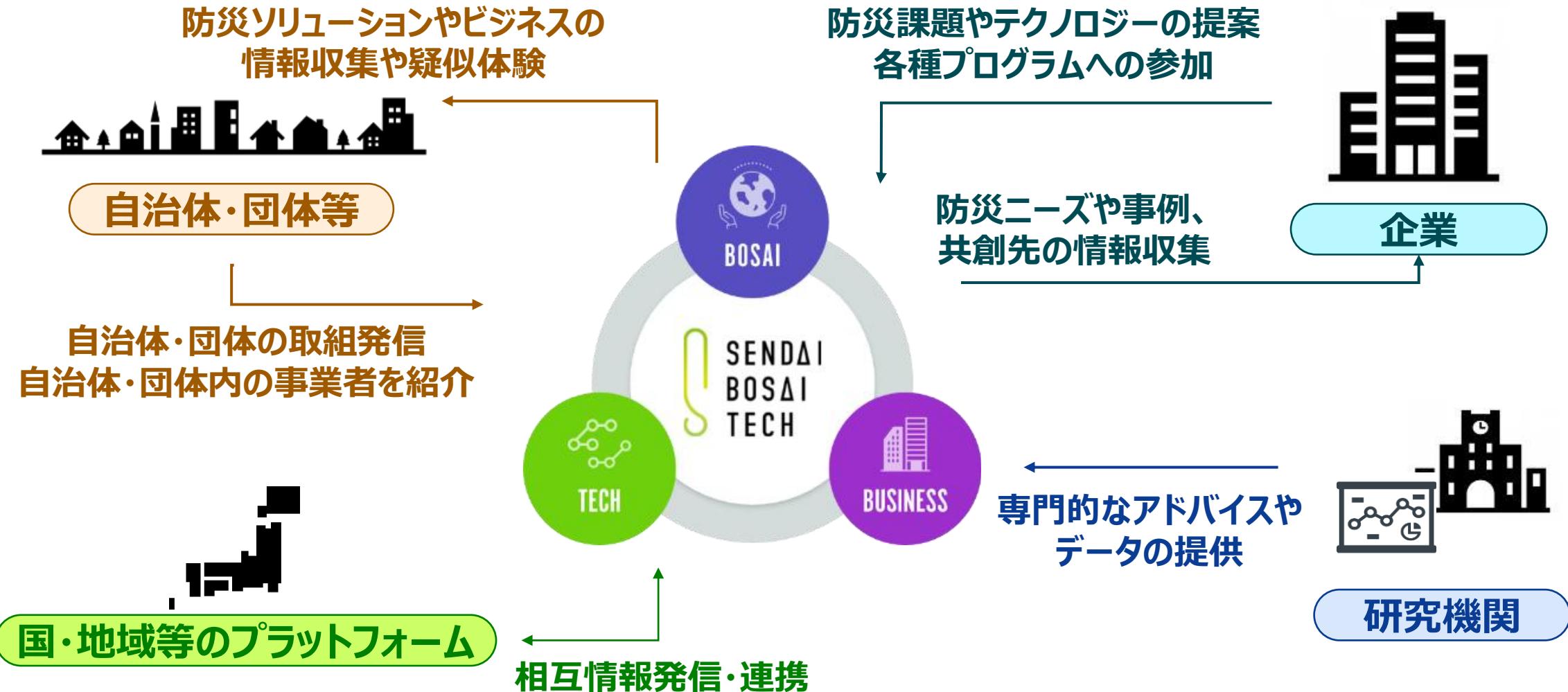
垂直測位技術を活用して、消防隊員の屋内位置把握に関する実証実験を浜松市にて実施

2025.02.07

株式会社ゼネットック | 浜松市 | MetCom株式会社 | 3D技術、地図・空間情報



プラットフォームの活用



国内外への発信

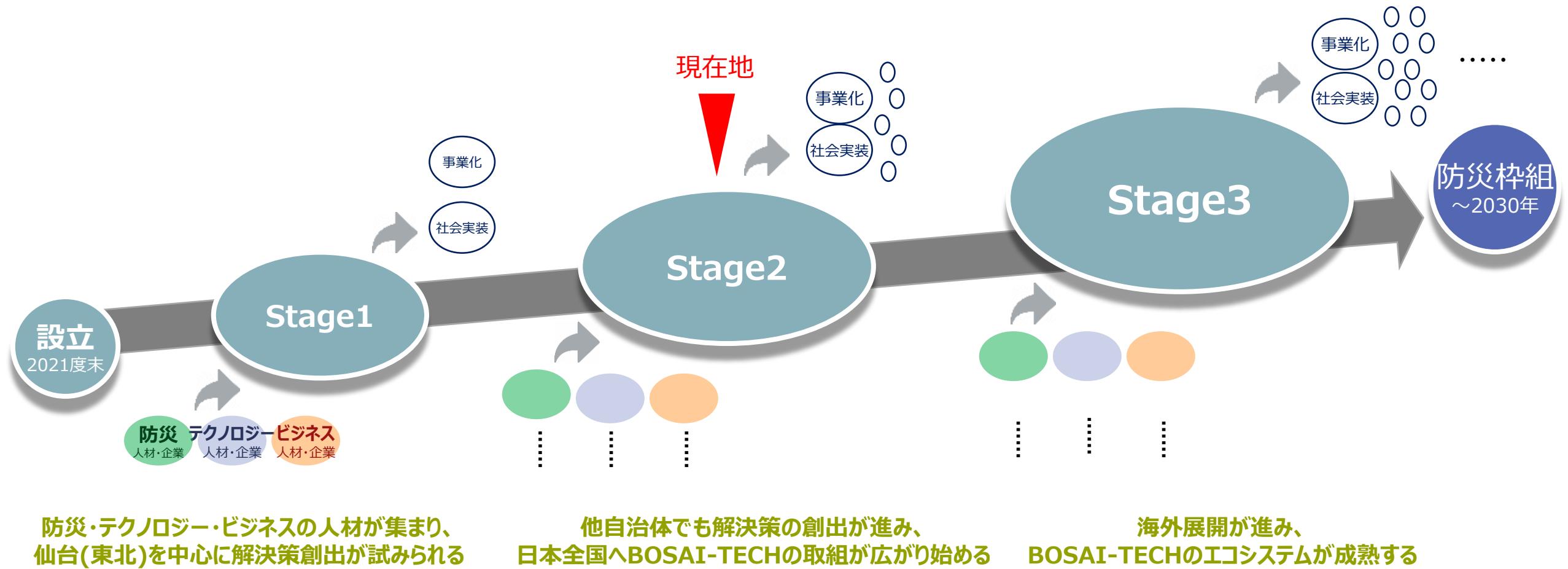
大阪・関西万博
(夢洲) 2025年5月28日～6月1日



Global Platform for Disaster Risk Reduction
(Genève, Switzerland) 2025年6月4日～6月6日



仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームのロードマップ



企業版ふるさと納税

**仙台BOSAI-TECH(※)では、「企業版ふるさと納税」を受け付けております。
是非ご検討いただけますと幸いです。**

※『成長産業振興事業』として受付

【仙台市】企業版ふるさと納税

URL : <https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/kigyoubanhurusato/kigyoubanhurusato.html>

※上記URLと同一の内容



問合せ先 : kei008030@city.sendai.jp

● 関心がありましたら、仙台市イノベーション企画課までお気軽にお問い合わせください

仙台BOSAI-TECH2025年度の活動予定

2025年度 プログラム概要 (1/2)

詳細は
リーフレットを
ご覧ください▶



事業創出プログラム

防災課題をテクノロジーで解決する
アイデアの事業化を支援

テクノロジーで明日を守る 課題探求プログラム

フューチャーアワーズ
Future Awards

防災現場の視察や、担当者から直接話を聞くことで、
防災課題への理解を深める場を提供

自治体担当者との対話から 気づきを得る個別セッション

オープンブリッジ
Open Bridge

想定ユーザに近い立場の自治体担当者との意見交換から、
現場視点での課題を理解し、ソリューションをブラッシュアップす
る機会を提供

事業化・社会実装 プログラム

実証実験・試作開発を支援

企業が自ら設定した課題に対する検証

自由提案型

企業が自ら設定した、防災・減災および気候変動対策の課
題に対して、有用性やアイデアの事業化に向けた実現性検証
に係る費用を支援

自治体が提示する課題に対する検証

自治体課題解決型

自治体が提示する課題に対して、有用性やアイデアの事業化
に向けた実現性検証に係る費用を支援

海外展開支援 プログラム

防災ソリューションの 海外展開にむけた個別相談

ステップアブロード
Step Abroad!

海外展開について、専門家への個別相談を実施

* その他、過去の採択企業に対して事業化に向けた継続支援も行っています。

2025年度 プログラム概要 (2/2)

情報発信 ／交流イベント

仙台BOSAI-TECH
カンファレンス

防災分野に関心の高い企業・研究機関・自治体が集結。
BOSAI-TECHの最新事例の紹介やマッチング機会を提供するオンラインイベント。

仙台BOSAI-TECH
Lounge (ラウンジ)

BOSAI-TECHに関心のある方々の交流を目的としたセミナーや座談会など、
様々な形での単発イベントを開催。

仙台BOSAI-TECH Lounge

～イベントシリーズ～

仙台BOSAI-TECH Lounge (ラウンジ)

2024年度の活動実績

開催月	タイトル	内容
2024年 11月	【座談会】 自治体の防災部門の生の声を聴こう	防災・減災領域の第一線で働く自治体の担当者をお呼びし、 防災課題や防災DXの実例について意見交換を行う公開型の座談会。 登壇者：仙台市、松島町、神戸市
2025年 2月	【交流会】 BOSAI-TECH交流会 in 仙台	「防災」「減災」に取り組みたい企業・個人の皆様にとって、新たな発見・出会いがきっと見つかる、仙台BOSAI-TECH初のリアル交流会。 登壇者：アイリスオーヤマ株式会社、Tsunami Balloon、株式会社宮城テレビ放送

仙台BOSAI-TECH Lounge (ラウンジ)

BOSAI-TECHに関心のある方々の交流や情報収集の場として、セミナー・座談会、交流会を不定期で開催しています。

イベントの様子：BOSAI-TECH交流会 in 仙台



仙台BOSAI-TECHカンファレンス



SENDAI BOSAI-TECH CONFERENCE 2025

仙台BOSAI-TECHカンファレンス 2025



年度末に防災分野に関心の高い企業・研究機関・自治体が集結し、
最新のBOSAI-TECH事例や防災に応用可能な技術・プロダクトを紹介するオンラインイベント

事例紹介

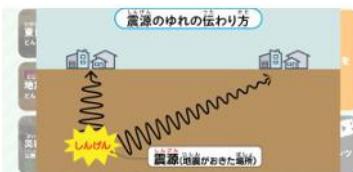
2024年度事例 | 株式会社宮城テレビ放送

2024年度 試作開発支援プログラム

学校防災教育の課題解決を目指し、防災知識を体験しながら、震災状況での判断を実際に子供に、自分事として感じてもらうことを目的とした、映像を活用した防災教育教材の試作開発を実施



「東日本大震災～どんなことが起った？」
ミヤギテレビの過去映像より宮城テレビが保有する東日本大震災の被害状況等の映像を活用。



「地震のメカニズム」
教育現場の防災教育で活用されている副読本(1～6年まで全3冊)の内容をふまえ、CGにてわかりやすく地震が起きる仕組みなどを伝える。



「公衆電話の使用方法」
災害時の家族などへの連絡手段として公衆電話の使用方法を覚えておくこと。171災害伝言ダイヤルの使用方法にも。



「家族防災会議を開こう」
家族と離れているときなどに災害が発生した場合の行動について各家庭でルールを決めてもらう。



「防災グッズ紹介」
普段の「備え」が必要であることを再確認。そろえておきたい防災グッズを紹介。



「お役立ちコンテンツ」
ミヤテレの「お役立ちコンテンツ」として過去の番組で放送Youtubeコンテンツへリンク。



防災教育コンテンツの映像
もんたい 01
いえ 家のリビングにいる時に とき
じしん お 地震がきました。
あなたはどうしますか？

大きなテーブルの下で 頭と体を守る

急いで家の外に出て逃げる

2024年度：試作開発の成果報告書はこちら
<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-285.html>

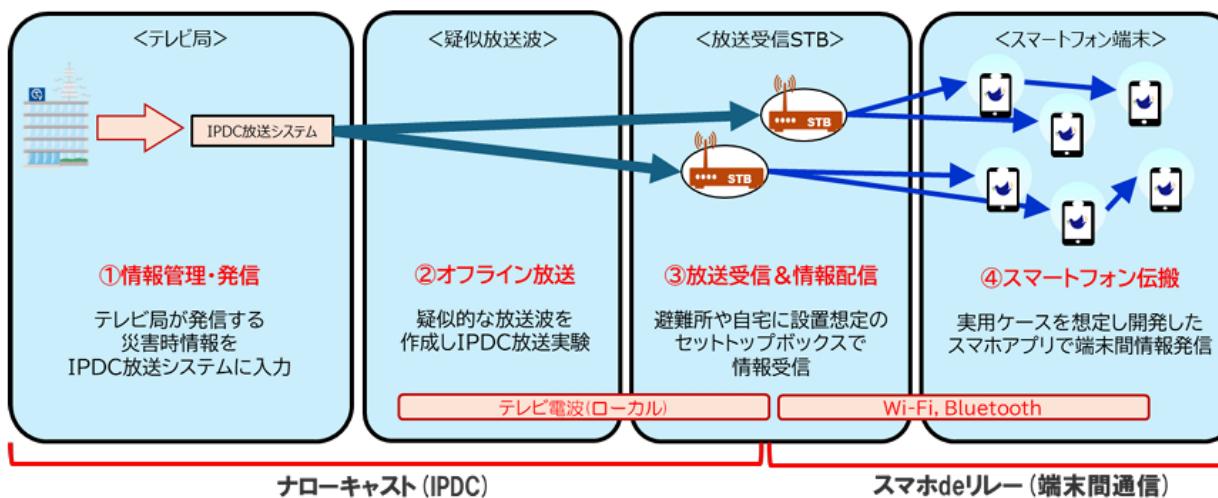
2024年度事例 | のどかサポート合同会社

2024年度 試作開発支援プログラム

大規模災害時の携帯通信網に依存しないスマホ等への情報配信のため、IPDC/ナローキャストとスマホ同士の無線通信リレーを組み合わせた情報提供システムを開発し、試作品の動作を検証

<共同提案者>

株式会社仙台放送、株式会社アトラクター、株式会社構造計画研究所



2025/1/16
無線通信リレーのデモ試験



2024年度 : 試作開発の成果報告書は[こちら](https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-278.html)
<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-278.html>

2024年度事例 | 株式会社JDRONE

2023年度

FutureAwards

遠隔操作する無人ヘリコプターと衛星通信を活用し、
迅速に災害状況が把握できるかを検証

2023/12/5
現地（ため池）と本部で画像伝送の実証実験



- 2023年度末 首都高速道路(株)と災害協定を締結
<https://jdrone.tokyo/news/press-release-20240325/>

2024年度

実証実験支援

塩竈市にて、災害発生時に交通インフラが断絶し、孤立する恐れのある離島へ、無人航空機（大型ドローン）による物資輸送ができるかを検証

2024/11/3
塩竈市防災イベントでの物質輸送の実証実験



- 2024年度末 宮城県との災害協定を締結
<https://jdrone.tokyo/news/press-release-20240325/>

2024年度事例 | Tsunami Balloon

2023年度

実証実験支援

VR津波避難シミュレーターを津波リスクのコミュニケーションツールとして用いることで、防災の設計者と当事者が一体となって安全な街づくりを目指す取り組みを検証



2023年度：実証実験の成果報告書は[こちら](https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-204.html)
<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-204.html>

2024年度

試作開発支援

津波の避難場所の周知を課題とする沿岸地域向けのソリューションとして、「バルーン型避難標識」の試作開発を行い、避難者に避難場所を掲示できるか検証

2025/1/22
東北大敷地内の掲揚試験



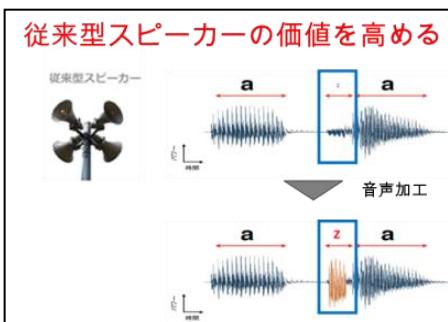
2024年度：試作開発の成果報告書は[こちら](https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-284.html)
<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-284.html>

2023年度以前の事例

サウンド株式会社

災害時に効果的な情報伝達を実現するため、AIによる音声の明瞭化技術を活用し、雨天時や高齢者でも聞き取りやすい屋外スピーカーの価値を検証

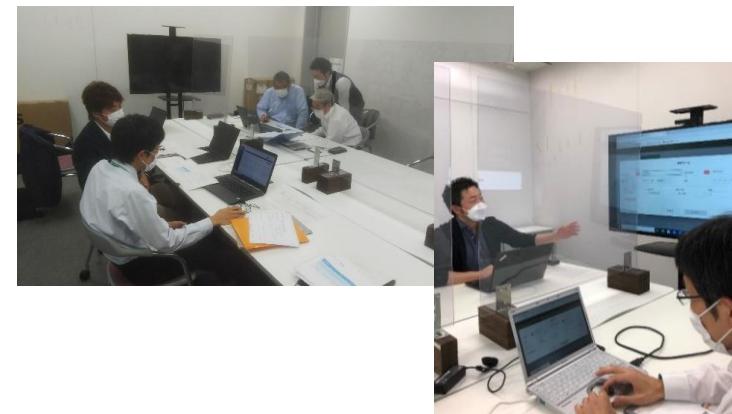
2022/2/15 沿岸部の屋外拡声装置での市職員向け実証実験



※仙台市などへの導入実績あり

プライムバリュー株式会社

災害時の物資要請のため、プロトタイプを用いた実証実験と、自治体や協定企業への課題ヒアリングを実施。災害時の業務プロセスに沿った必須機能の精査やユーザービリティを検証。

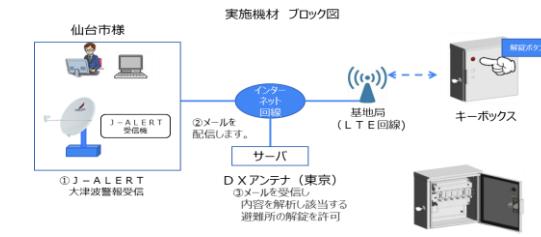


2021年度：実証実験の成果報告書はこちら：
https://sendai-bosai-tech.jp/media/files/_u/topic/file/19ccdot4w.pdf

DXアンテナ株式会社

IoT避難所キーBOXを活用し、市職員や管理者が不在でも施錠された指定避難所を遠隔操作で開錠し、避難者の受け入れが可能かを検証

2023/2/16 仙台市職員、他自治体向けにデモ形式の実証実験



直近の動き

➤ 2024年度 自治体向けに実装（導入事例あり）

事例の検索

NEWS & REPORT

NEWS&REPORTページで事例の項目をクリック

主要なイベント

BOSAI-TECH事業創出プログラム Global Innovation Program 実証実験・試作開発支援プログラム
 BOSAI-TECHカンファレンス 仙台BOSAI-TECH Lounge 海外展開支援プログラム
すべてチェック / 解除

コンテンツ

プラットフォーム紹介 事例・試作開発 事例・実証実験 事例・社会実装 インタビュー
 ソリューション 防火講題 Future Awards Open Bridge ステニア掲載 その他
すべてチェック / 解除

フリーワード

更に絞り込む

検索

事例 | 実証実験
無人ヘリコプター×衛星通信による迅速な災害状況把握【株式会社J DRONE】
仙台BOSAI-TECH事業創出プログラム Future Awards 2023において、株式会社J DRONEが、衛星通信を駆使した無人ヘリコプターを用いて、山間などアセスメントが困難な場所での活動に対応する検討を行いました。成果報告書をダウンロード↓、背景と課題、災害対応運用ため池を…
2024.03.19
株式会社J DRONE | BOSAI-TECH事業創出プログラム

事例 | 実証実験
VR津波避難シミュレーターの試作開発と試験展示～あなたの避難体験が安全な街づくりのヒント～[Tsunami Balloon]
実証実験・試作開発支援プログラムにおいて、Tsunami Balloonが、VR実験装置・モニターを津波リスクのコミュニケーションツールとして用いることで、防災の専門家と当事者が一体となって安全なづくりを目指し、検討を行いました。成果報告書をダウンロード↓、背景と課題 ■津波避難の歴…
2024.03.19
株式会社J DRONE | AR, VR, MR | 実証実験・試作開発支援プログラム

事例 | 実証実験
ジョラマ×デジタルによる防災接点の「身近」化に関する検証【フロッグス株式会社／一般社団法人防災ジョラマ推進ネットワーク】
仙台BOSAI-TECH事業創出プログラム Future Awards 2023において、フロッグス株式会社と一般社団法人防災ジョラマ推進ネットワークが、ジョラマアプリジェクションマッピング/AIの技術を掛け合わせることで、震災以外の様々な关心や動機の入口から、防災意識コンテンツに触れる機会を創出…
2024.03.19
フロッグス株式会社 | 一般社団法人防災ジョラマ推進ネットワーク | BOSAI-TECH事業創出プログラム

ニュースリリー
「NewsDigest」「FASTALERT」を活用した市民参加型の被害状況把握に関する実証実験
【X連携】
2023年11月1日、「NewsDigest」を使って地域住民から情報提供された被害状況等を多賀城市職員が「FASTALERT」を使って正確・適時・的確する要領を検討するとともに、災害時の市民の精神的な参加、対応意図を高めることを目的とした検討会を実施します。詳細は下記よりご覧ください。http://…
2023.11.07
株式会社JX通信社 | 多賀城市 | AI, 情報学習 | 地域・地図・空港情報 | コンシューマ向けソフトウェア | エンターテイメント向けソフトウェア

事例 | 実証実験
リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取組み
実際実験サポートプログラム2022年度第2期において、株式会社JX通信社が、「いつ・どこ・何が」発生しているかを迅速に把握し、迅速かつ適切な災害対応を行うために、リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用し、公的・民間の負担軽減と地域の防災・減災力を高め…
2023.03.22
株式会社JX通信社 | AI, 情報学習 | コンシューマ向けソフトウェア | エンターテイメント向けソフトウェア | ニュース | 実証実験・試作開発支援プログラム

事例 | 実証実験
バルーンを用いた指定緊急避難場所への避難説明の検証
実際実験サポートプログラム2022年度第2期において、Tsunami Balloon（東北大大学院 津波工学研究室 桐田和之助）が、津波発生時の指定緊急避難場所への説明を目的とし、避難先の方向や距離を的確に把握するための測量機器として、専用バルーンの活用を目指し、検討を行いました。提案概…
2023.03.22
東北大大学院 | 桐田和之助 | AI, 情報学習 | コンシューマ向けソフトウェア | エンターテイメント向けソフトウェア | 実証実験・試作開発支援プログラム

多数の事例を公開しております
ぜひ仙台BOSAI-TECHサイトをご覧ください

事業創出プログラム

事業創出プログラム – Future Awards

仙台BOSAI-TECH Future Awardsとは？

仙台BOSAI-TECH Future Awards ～テクノロジーで明日を守る課題探求プログラム～

プログラムへの参加を通じて、
防災関連課題を解決する新規ソリューションの創出を目指す事業

Future Awardsの 課題探求とは？

実際の防災現場の視察や現場担当者へのヒアリング、参加者との意見交換などを通じて、防災や環境課題への理解を深め、課題解決のアイデア創出を目指すこと

仙台BOSAI-TECH Future Awards (参考) 昨年度実施内容

● 現場視察ツアーの様子



津波避難タワー



災害物資備蓄倉庫

昨年度の実施内容詳細は、
Future Awards 2024 開催レポートよりご覧いただけます。
⇒<https://sendai-bosai-tech.jp/news/detail/---id-239.html>

● ワークショップの様子



● アイデア発表会の様子



仙台BOSAI-TECH Future Awards

今年度実施内容

◆今年度は、現場視察や震災経験者に話を聞くなどの半日程度のプログラムを計3回実施予定です。

第1回 | 10月29日開催

<自治体防災／危機管理の現場を知る>

仙台市近隣自治体（塩竈市）の災害対策本部および防災備蓄倉庫の現場視察

第2回 | 11月頃開催予定

<東日本大震災を経験した企業の話を聞く>

仙台市内の中小企業経営者のトークセッション・参加者との意見交換を通じて、災害時の企業課題を紐解く

第3回 | 詳細企画中

<気候変動対策・脱炭素領域に関する課題を知る>

参加者の意見交換やアイデアのブラッシュアップなど、皆様の事業創出につながるフォローを随時実施予定です。

第1回 自治体防災／危機管理の現場を知る

◆第1回は、塩竈市の防災現場視察を実施します。

開催日程

2025年10月29日(水) 13:00～16:30 (予定)

集合場所

塩竈市役所 (宮城県塩竈市旭町1番1号)
※現地集合・解散を想定。

JR仙台駅から約35分
(電車+徒歩)

視察内容

- ガイダンス
- 塩竈市の災害対応現場視察
 - 災害対策本部
 - 災害情報の収集と関係部署・発災現場との情報共有
 - 災害物資備蓄倉庫
 - 灾害物資の備えと発災時の物資搬入・搬出
- 参加者意見交換会

※会員自治体の塩竈市ご協力のもと、実施します。



仙台BOSAI-TECH Future Awards 第1回の参加に関するご案内

参加要件

- ・ 防災関連（気候変動対策・脱炭素含む）課題を解決する事業創出に意欲のある方
※法人・個人は問いません。

エントリー案内

- ・ **9月12日（金）17:00までに、BOSAI-TECHウェブサイトのエントリーフォームより、ご応募ください。**
- ・ エントリー時は、プログラムに対する意気込みや、現時点で着目している課題、保有している技術等を記載ください。
※応募多数の場合、防災関連の課題解決にむけたアイデア創出への意欲の強さや、アイデア・着目している課題の重要性を基準に、総合的に参加者を選抜します。

その他

- ・ **参加費無料**
- ・ プログラム参加に要する交通費、通信費、その他費用はご自身でご負担ください。

第2回／第3回の申込受付開始時期のご案内

募集予告

◆Future Awards 第2回／第3回へのご参加は、各回ごとにお申込みが必要となります。

第2回 | 11月頃開催予定

< 東日本大震災を経験した企業の話を聞く >

仙台市内の中小企業経営者のトークセッション・参加者との意見交換を通じて、災害時の企業課題を紐解く

第3回 | 詳細企画中

< 気候変動対策・脱炭素領域に関する課題を知る >

実施内容は現在企画中

10月頃 申込受付予定

11月～12月頃 申込受付予定

申込受付開始のご案内は、ニュースレターでお届けいたしますので、ご興味・ご関心のある方はぜひご登録ください。

事業創出プログラム – Open Bridge

仙台BOSAI-TECH Open Bridgeとは？

仙台BOSAI-TECH Open Bridge ～自治体担当者との対話から気づきを得る個別セッション～

自治体担当者との個別セッションを通じて、
防災関連ソリューションのブラッシュアップを目指す事業

Open Bridgeの
個別セッションとは？

現場視点での課題を理解するため、想定ユーザーに近い立場である、自治体担当者との意見交換を行うこと。

仙台BOSAI-TECH Open Bridge プログラムの流れ

◆エントリーから選考、ご支援の実施までの流れは下記の通りです。

エントリー

プラットフォームウェブサイトより、必要事項を記入のうえ、
ご応募ください。

9月5日 まで

選考※

エントリー内容をもとに、個別セッションに対応可能な
自治体とも調整のうえ、事務局にて選考。

9月中旬

個別セッション

事務局とのオリエンテーションを行い、
自治体担当者との個別セッション、フォローアップ等を行います。

11月頃～2月末

※本プログラムは、BOSAI-TECH会員自治体の協力のもと開催しております。

また、ソリューションのブラッシュアップにより役立つ意見交換の場とするために、対応可能な自治体の調整とあわせて選考を行うことから、
協力可能な自治体および選考通過される件数に限りがある点について、ご了承ください。

◆以下の流れで個別セッションを進めます。また、個別セッションに向けて、事務局が伴走支援します。

オリエンテーション

- ・ 事務局と面談し、提案内容の詳細や、個別セッションにむけた準備事項を確認。
- ・ その後、個別セッションに参加する自治体担当者との日程調整を実施。

自治体担当者との 個別セッション

- ・ 想定ユーザに近い立場の**自治体担当者**と対面で意見交換を実施。
- ・ 意見交換の場にて、エントリーしたソリューションやアイデアに対して、**自治体担当者から** **現場視点での意見**をもらい、関連する課題の理解を深める。

ラップアップ ミーティング

- ・ 事務局と面談し、個別セッションでの意見交換内容の振り返りや、今後の対応策など次のアクションに向けた検討を行う。

仙台BOSAI-TECH Open Bridge

参加に関するご案内

参加要件

- 次の領域の課題解決を目的とする事業に取り組む意欲のある法人であり、該当領域に応用可能性のある要素技術・ソリューション・プロダクトを有すること。
 - 防災・減災
 - 気候変動対策・脱炭素
- 選考された場合、仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること。

現在開発中のアイデアやリリース直後のソリューションなどでも応募可能です。

その他

- 自治体との個別セッションは対面形式での実施を予定しております。
- 参加に要する交通費、通信費、その他費用はご自身でのご負担となります。

事業化・社会実装プログラム

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラムとは？

防災関連のアイデア・ソリューションの事業化に向けて、
実証実験や試作開発を支援するプログラム

防災関連ソリューションの実用化に向けた実証実験やアイデア検証の
ための試作開発の後押しを目的としています。

自治体課題解決型

自治体が抱える課題に対する
実証実験・試作開発を支援

自由提案型

企業が自ら設定した課題に対する
実証実験・試作開発を支援

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 自治体課題解決型 課題詳細

◆今年度、仙台市では以下7件の課題を解決する提案を募集しています。

- 指定避難所（学校施設等）における停電時のマンホールトイレ暖房
- 仙台市の3D都市モデルの防災分野で利活用
- 航空写真を用いた太陽光発電施設の状況把握と災害発生リスクの抽出
- 災害廃棄物の発生地点と量の把握
- 不法投棄やごみ散乱等の防止
- 小中学校における実践的な防災教育の取り組み（昨年度より継続）
- 同報系情報提供システムに関する新規通信方式（昨年度より継続）

※課題詳細は、プラットフォームウェブサイトからご覧いただけます。

<https://sendai-bosai-tech.jp/event/detail/?id=95#kadai>

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 自治体課題解決型 参加要件

参加要件

- ・ 自治体が抱える課題の解決を目的とした事業に取り組む意欲のある企業
- ・ 日本国内に事業拠点をもつ法人であること
- ・ テクノロジーを活用した製品・サービスを有すること。なお、以下のいずれかの領域であること
 - ✓ 防災・減災に応用可能性があるもの
 - ✓ 気候変動対策・脱炭素の課題解決に貢献し、なおかつ将来の防災・減災に資するもの
- ・ 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること

※詳細は、応募要項をご参照ください。

支援内容

事業拠点に応じて、下記の費用支援を行います。

- ・ 仙台都市圏に拠点がある場合は、最大200万円を支援します。
- ・ 東北に拠点がある場合は、最大100万円を支援します。

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 自治体課題解決型 応募の流れ

事前相談 (必須)

実証実験・試作開発のテーマや計画のご相談などが可能です。 **8月29日 まで**

本申込 ※企画提案書提出

事業プランの概要・実証実験・試作開発の計画等を記載した企画提案書を提出いただきます。 **9月12日 まで**

実証実験・試作開発

採択となった事業者は、企画提案書に基づき、課題提示自治体とも調整のうえ、実証実験・試作開発を進めていただきます。 **10月下旬～
2026年2月**

成果報告書

成果報告書を作成・提出いただきます。 **2026年2月末**

＜課題の背景＞

- 災害時に断水した場合、避難所トイレとしてマンホールトイレや仮設トイレ組立式を屋外に設置するが、屋外設置のため、冬季には利用者が寒さに苦しむこととなる。特に停電時は、寒さの厳しさからトイレ使用をためらう人が出てくることが想定される。

＜実現したいこと＞

- 災害時の停電状態でも、マンホールトイレや仮設トイレ組立式を使用する人向けに安全かつ電気を必要としない（もしくは乾電池レベルのわずかな電力で対応できる）、暖をとれる仕組みを提供したい。

＜想定している技術＞

- 電気を必要としないもの（もしくは乾電池レベルのわずかな電力で対応できるもの）を想定している。

＜希望する実証時期・実証場所＞

- 令和7年12月～令和8年1月頃、上杉山通小学校での実証を希望する。

＜その他＞

- 避難所運営マニュアルのマニュアルシート集のシートC「避難所トイレの確保」
(仙台市HP : <https://www.city.sendai.jp/kekaku/kurashi/anzen/saigaitaisaku/hinanjo/une.html>)
※マンホールトイレに関するマニュアルは現在作成中のため掲載できず)

仙台市の3D都市モデルの防災分野で利活用

<課題の背景>

- ・ 国土交通省が主導する「Project PLATEAU（プラトー）」では、日本全国の3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を進めている。3D都市モデルとは、航空測量等に基づき取得したデータを活用して建物等を三次元で生成したもので、令和6年度末には全国で約250都市がオープンデータ化されている。
- ・ 令和5年4月に、県内初となる本市の3D都市モデルがオープンデータ化され、都市活動のシミュレーションや分析など、幅広い利活用がどうなたでも可能となった。オープンデータ化以降、各種ユースケース開発に活用されてきてはいるが、防災関連分野での利活用をさらに加速化していきたい。

<実現したいこと>

- ・ 仙台市の3D都市モデルを、防災関連課題の解決に活用したい。

<想定している技術>

- ・ ソフトウェアを想定しているが、特にこだわらない。

<希望する実証時期>

- ・ 特になし

<その他>

- ・ 3D都市モデルについて（仙台市HP：<https://www.city.sendai.jp/toshi-kekakuchose/3d/3d.html>）
- ・ Project PLATEAUについて（<https://www.mlit.go.jp/plateau/>）

航空写真を用いた太陽光発電施設の状況把握と災害発生リスクの抽出

＜課題の背景＞

- 市内に設置されている太陽光発電施設について、設置状況や年度ごとの増減を1件ずつ航空写真で確認しており、作業が非効率である。
- また、太陽光発電設備の設置方法（屋根置き型／地上設置型）も航空写真で1件ずつ確認しており、作業が非効率である。
- 屋根置き型太陽光発電設備の場合、エリアごと・築年数ごとの分布状況を把握するのが困難である。
- 市内の太陽光発電施設の実態調査を行っており、災害発生リスクが高い施設などを優先的に調査対象したいが、該当施設の特定が困難である。
- 現在、土砂災害警戒区域などの高リスク施設の把握は、府内GISの航空写真により、土砂災害警戒区域などのレイヤーを重ね、地図を一つ一つ確認する方法しかない状況にある。
- 太陽光発電施設の確認を的確かつ効率的に行わないと、不適切な維持管理による事故等や放置された施設が適切に解体・撤去が行われないといった問題が発生する可能性がある。

＜実現したいこと＞

- 市内の太陽光発電施設について、施設の増減・太陽光の普及率・導入量・エリア分布・地上設置型太陽光の手続き漏れ・設置状況（設置時期や所有者、施設の管理状況など）などのデータを集約し、各種業務に活用したい。
- 太陽光発電施設の設置状況と土砂災害や有害物質流出のリスクが高い地形データを照らし合わせ、実態調査における優先順位を設定したい。

航空写真を用いた太陽光発電施設の状況把握と災害発生リスクの抽出

＜想定している技術＞

- 担当のデスク上で、航空写真をベースとしたシステムを常時閲覧可能とし、課題解決に必要なデータなどをエクスポート、インポートできるようにしたい。
※技術にはこだわりません。

【抽出内容（想定）】

FIT・FIP制度を活用の有無、設置時期、導入量、普及率、エリア分布の分析、所有者、施設の管理状況、地上・屋根、発電出力、事業面積など

＜希望する実証時期・実証場所＞

- 令和7年度中、仙台市会議室での実証を希望する。

＜その他＞

- 仙台市太陽光条例のHP
(<https://www.city.sendai.jp/kankyochose/kurashi/machi/kankyohozan/kurashi/taiyokojorei/taiyokojorei.html>)
- 毎年または数年に一度、航空写真の更新は必要と思われる。
- 他自治体においても、FIT・FIP制度によらない施設（非FIT施設）の把握に苦慮している。

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 災害廃棄物の発生地点と量の把握

＜課題の背景＞

- ・ 大規模災害発生時の復旧・復興には、災害廃棄物の収集・処理の速やかな完了が必要であるが、発生場所・量によって人的・物的資源の投入量が変わる。
- ・ 令和5年の秋田豪雨（水害）においては大規模な内水氾濫が起きたが、被災自治体において発生場所・量が把握できておらず、支援に入った本市応援部隊も片づけごみの収集に苦慮した。
- ・ 多くの自治体において、災害廃棄物は市町村等が指定した仮置場への持込（自己搬入）が基本であるが、当該内容で広報した場合においても、災害発生直後から、既存のごみ集積所や道路、空き地等に片づけごみが排出される（勝手仮置場：住民が勝手に持ち寄るごみ置場）ことが想定される。
- ・ 「『ごみ』が『ごみ』を呼ぶ」ことを防ぐために、勝手仮置場の早期収集撤去が必要であるが、どこにつくられたのかの把握は、通報や市職員の人海戦術によるところが大きい。
- ・ 災害の規模が大規模になる（被災地域が広くなる）ほど、被災自治体や近隣自治体での対応が困難になるため、他の地域の自治体や事業者の応援活動が必要となり、土地勘のない人手による効率的収集ルートの構築が求められる。

＜実現したいこと＞

- ・ 災害発生時に災害廃棄物の発生場所・量を把握し、災害廃棄物排出エリアを早期に特定する。
- ・ 災害時に発生する勝手仮置場の位置を早期に把握する。
(以下は、実現できると望ましい)
- ・ 災害廃棄物発生量推計の自動化・精緻化
- ・ 片づけごみ収集ルートの作成

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 災害廃棄物の発生地点と量の把握

＜想定している技術＞

- ・ 画像処理（認識を含む）、位置情報、衛星写真処理、集計フォーマット自動入力等が想定されるが、特にこだわるものはない。

＜希望する実証時期・実証場所＞

- ・ 令和8年1月までの実証を希望する。

＜その他＞

- ・ 災害の種類や規模により、排出される片づけごみの種類、量が異なると想定されるため、その前提で実証可能な提案に限る。
- ・ 通常の家庭ごみ収集ルートのデジタル化については別途取り組んでおり、当該データと今回の実証事業で利用見込みの立った技術を掛け合わせて、最適解を求めることが視野に入れている。

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 不法投棄やごみ散乱等の防止

＜課題の背景＞

- ・ 仙台市には、毎年200件程度の廃棄物の不法投棄や不適正排出等に係る通報が寄せられる。それらの多くは、行為者が不明であり、原則、場所が民地でない場合は、本市の負担で廃棄物を処理している。
- ・ 不法投棄等を監視するため、平日は市職員、休日は委託業者が継続的にパトロールを行っており、また、頻繁に不法投棄等が発生する場所にはカメラを設置しているが、映像に行行為者が映っていても、画質等の問題で特定できないこともある。
- ・ また、中心市街地では、不法投棄等に加え、飲食店等から排出される営業ごみを鳥獣等が散乱する状況も見受けられ、正に「ごみがごみを生む」状況である。
- ・ 周辺の事業者に対して、営業ごみの出し方等に関する周知啓発活動も行っているが、店舗や従業員の入れ替わりが激しいため、十分徹底されないのが現状である。
- ・ 特に東北一の繁華街である国分町地区では、最近、不法投棄や営業ごみの散乱等が目につくようになっており、市民の方々から当市に度々苦情が寄せられている。頻繁に不法投棄や営業ごみの散乱等が発生する場所は、職員が定期的にパトロールを行っているが、実効性のある対策を講じることができていない。

＜実現したいこと＞

- ・ 不法投棄や営業ごみの散乱等に対応するための人的なコスト及び処理負担の削減。
- ・ 行為者や原因発生者の特定。
- ・ 特に不法投棄や営業ごみの散乱等が頻繁に発生する場所で未然に防止し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 不法投棄やごみ散乱等の防止

＜想定している技術＞

- 不法投棄や営業ごみの散乱等の抑制に寄与するもので、当市において実証可能であり、かつ、導入や実証に伴う負担が少ないものであれば、特に技術にはこだわらない。

＜希望する実証時期・実証場所＞

- 実証時期
 - 令和8年1月までの実証を希望する。
 - なお、不法投棄等の防止については、草木の繁茂が落ち着き、見通しが良くなる秋頃を希望する。
- 実証場所
 - 不法投棄等の防止は、市内西部山間部や東部田園地区等想定。
 - 営業ごみの散乱等の防止は、中心市街地を想定。

＜その他＞

- 不法投棄のイメージ（画像左）
- 鳥獣等により散乱した営業ごみのイメージ（画像右）



仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 自由提案型 参加要件

参加要件

- ・ 防災関連（気候変動対策・脱炭素含む）課題解決を目的とした事業に取り組む意欲の中堅・中小企業
- ・ 東北6県に事業拠点をもつ法人であること
もしくは、東北6県に事業拠点を持つ企業との共同提案であること
- ・ テクノロジーを活用した製品・サービスを有すること。なお、以下のいずれかの領域であること
 - ✓ 防災・減災に応用可能性があるもの
 - ✓ 気候変動対策・脱炭素の課題解決に貢献し、なおかつ将来の防災・減災に資するもの
- ・ 仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームに会員登録できること

※詳細は、応募要項をご参照ください。

支援内容

事業拠点に応じて、下記の費用支援を行います。

- ・ 仙台都市圏に拠点がある場合は、最大200万円を支援します。
- ・ 東北に拠点がある場合は、最大100万円を支援します。

仙台BOSAI-TECH 事業化・社会実装プログラム 自由提案型 応募の流れ

事前相談 (必須)

実証実験・試作開発のテーマや計画のご相談などが可能です。 **9月19日 まで**

本申込 ※企画提案書提出

事業プランの概要・実証実験・試作開発の計画等を記載した企画提案書を提出いただきます。 **10月3日 まで**

実証実験・試作開発

採択となった事業者は、企画提案書に基づき、主体的に実証実験・試作開発を進めていただきます。 **10月下旬～
2026年2月**

成果報告書

成果報告書を作成・提出いただきます。 **2026年2月末**

海外展開支援プログラム

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラムとは？

海外展開に向けた第一歩を支援 ～ Step Abroad ! ～ 防災・災害対策の技術・経験を海外へ！

海外展開支援プログラム「Step Abroad!」とは

- 防災関連ソリューションの海外展開に少しでも関心がある企業や、将来的に海外で事業展開したい企業をサポートする個別相談プログラムです。
- 海外展開について検討をはじめたばかりの方から、海外現地への展開を見据えた方まで、海外展開について理解を深め、前進することを支援します。

対象

東北6県に拠点を持つ中堅・中小企業

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラム

支援内容

実施内容

- 申込内容や企業様の検討状況をもとに**個別の支援メニューをご用意します。**
- ご支援は、**専門家によるオンラインでのヒアリング・ディスカッション**を主とした対話型で実施します。
(期間は約3か月で、3回程度の打合せを想定)

支援メニューの例

海外展開を何から始めるかから
検討したい企業様には、

▶ **相談とディスカッション**

具体的な地域・国を想定した
検討を進めたい企業様には、

▶ **デスクリサーチサポート
(情報整理、統計・データの収集)**

デスクリサーチもやってきたので
現地の声を知りたい企業様には、

▶ **現地ユーザのリサーチ
サポート**

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラム

支援事例のご紹介

◆昨年度の支援実績例をご紹介します。

事例① | A社への支援の場合

A社が持つ防災ソリューションの海外展開に向けて、進出対象国の選定およびマーケットリサーチを支援

計3回のディスカッションを実施

- ① 海外進出に向けた現状課題整理
- ② 進出対象を検討する国の絞り込み
- ③ デスクリサーチの結果を踏まえたディスカッション

支援内容

事例② | B社への支援の場合

JICA SDGsビジネス支援事業への申込および選考過程対策を支援

計3回のディスカッションを実施

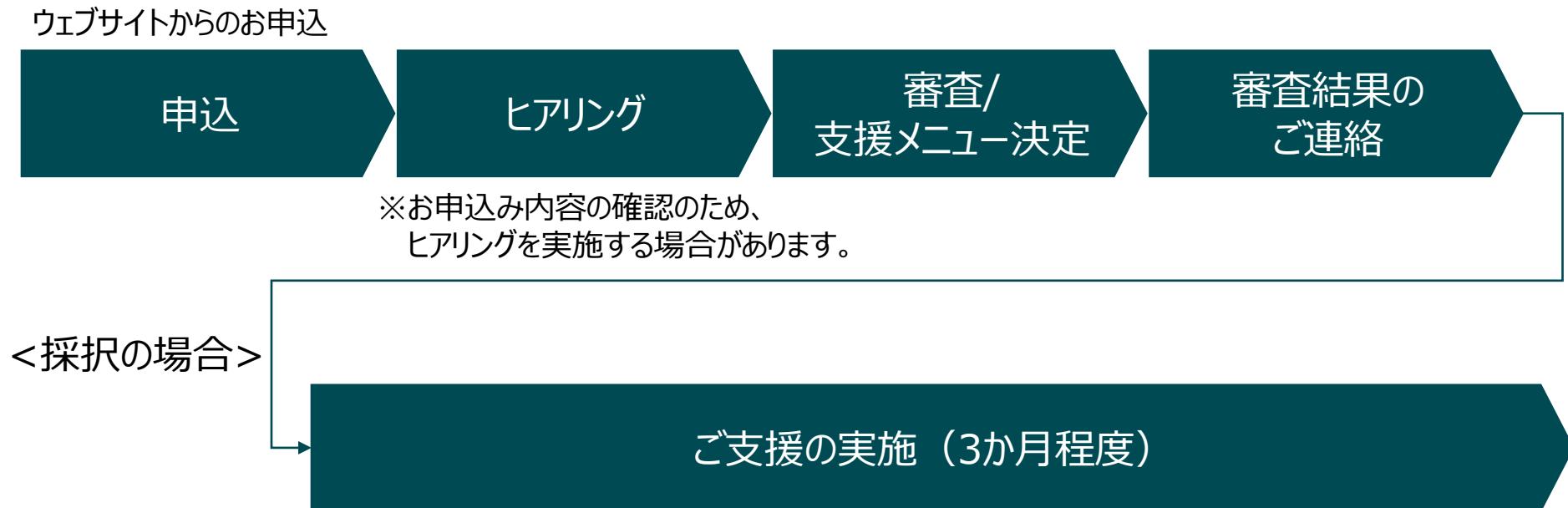
- ① JICA支援事業活用に向けたディスカッション
- ② 現地関係者へのヒアリングサポート
- ③ 企画内容のブラッシュアップ

仙台BOSAI-TECH 海外展開支援プログラム プログラムの流れ

エントリー案内

- **8月29日(金) 17:00までにBOSAI-TECHウェブサイトのエントリーフォームよりお申込みください。**
※お申し込み内容をもとに、事務局にて審査を行います。
※お申込み後、事務局からヒアリングのご案内をさせていただく場合があります。

エントリーから支援までの流れ



質疑応答



本日ご紹介したプログラムや
当プラットフォームに関する
質問に回答します。

さいごに

仙台BOSAI-TECHプラットフォームの参加方法

方法① ニュースレター購読

■ News Letter のご案内

メールアドレスを登録すると、イベントなど最新情報が配信されます。（無料）

登録するメールアドレスを入力してください

[個人情報の取り扱いに同意する](#)

[購読する](#)

方法② 一般会員への登録

プラットフォームへ
参画をご希望の方はこちら

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームでは防災課題の解決に向けて、防災関連事業の創出に関心のある法人、自治体、研究機関の皆さまを幅広く募集しています。

[会員登録に申し込む](#)



※どちらも費用は不要

一般会員の特典（一例） | 会員ページの作成

会員一覧ページ

The screenshot shows the 'MEMBERS' page with a search bar at the top. Below it is a section for filtering by category (種別) and keyword (フリーワード). A large green button labeled '検索' (Search) is centered. Below the search area, there's a message about the platform's purpose: '防災領域で事業化を検討中の企業、防災ソリューションを取り入れたい自治体、テクノロジーをお持ちの企業・研究機関など、防災関連産業の創出に関心のある会員で本プラットフォームは構成されています。' A '一覧表示はこちら' link is present. At the bottom, three member cards are displayed: IQGEO Japan株式会社, AICREATE inc., and 愛知県.

会員一覧ページ：
<https://sendai-bosai-tech.jp/members/>

会員個別ページ

The screenshot shows the 'MEMBERS' page with a member profile for 'ANDEX'. The profile includes the company logo (red 'ANDEX' with a hand icon), location (日本 宮城県仙台市), contact information (担当者: 三島 順 (みしま じゅん)), and a 'ウェブサイトへ' (Web Site) button. A message box at the bottom right says '担当者にメッセージを送る' (Send message to contact person).

【担当者にメッセージを送る】機能は、連絡先を非公開で
その他の会員から、メッセージを受け付けることが出来ます。
(メッセージの受付は任意選択)

会員個別ページ『（参考）アンデックス(株)』：
<https://sendai-bosai-tech.jp/members/detail/---id-3.html>

ソリューション記事の検索

NEWS & REPORTページ

NEWS & REPORT

主要なイベント

- BOSAI-TECH事業創出プログラム
- Global Innovation Program
- 実証実験/試作開発支援プログラム
- BOSAI-TECHカンファレンス
- 仙台BOSAI-TECH Lounge
- 海外展開支援プログラム

すべて [チェック](#) / [解除](#)

コンテンツ

- プラットフォーム紹介
- 事例 | 実証実験
- 事例 | 社会実装
- インタビュー
- ソリューション
- 防災課題
- Future Awards
- Open Bridge
- メディア掲載
- その他

すべて [チェック](#) / [解除](#)

フリーワード

更に絞り込む

検索

検索結果： 156 件

ソリューション NEW

河川防災監視へ、IoT技術を活用し現地周辺環境を素早くキャッチできる『みるわん』
【株式会社建設技術研究所】

河川状況・道路冠水監視に必要な観測機器をワンセットでご提供（株）建設技術研究所のIoT監視観測パッケージ『みるわん』なら、高密度監視カメラや水位観測で、現地の状況変化とその勢いまでを確実に捉えることができます。雨量計は5分毎、水位計と監視カメラは1分毎にデータ配信が可能です。水…



WEBサイトに掲載された BOSAI-TECHソリューション

複数のソリューション記事が並んで表示されています。各記事には、タイトル、本文の抜粋、日付、関連リンクなどが含まれています。

例文：複数のソリューション記事が並んで表示されています。各記事には、タイトル、本文の抜粋、日付、関連リンクなどが含まれています。

記事一覧ページ：

<https://sendai-bosai-tech.jp/news/>

仙台BOSAI-TECHプラットフォームの参加方法

方法① ニュースレター購読

■ News Letter のご案内

メールアドレスを登録すると、イベントなど最新情報が配信されます。（無料）

登録するメールアドレスを入力してください

[購読する](#)

[個人情報の取り扱いに同意する](#)

方法② 一般会員への登録

プラットフォームへ
参画をご希望の方はこちら

仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォームでは防災課題の解決に向けて、防災関連事業の創出に関心のある法人、自治体、研究機関の皆さまを幅広く募集しています。

[会員登録に申し込む](#)



※どちらも費用は不要

ぜひ、皆さまの申し込みをお待ちしております！

アンケート ご協力のお願い



後日、アンケートをメールで送付しますので、ご協力をお願いします
(Zoom退室後もアンケートフォームが開きます)

THANK YOU!



SENDAI BOSAI TECH